

2011.MAR

釣り人が創る逸品釣具 ぎあ・らぼ

お気楽Gear-labニュースレター第28号です。

やっと春めいて参りましたね。

なんと2月は釣りに一回も行っていません。今はスゴイ禁断状態で週末の釣りに合わせて釣具をひたすら撫でております。(～～;)

今回の釣りはアメリカから買ってきた釣具をたくさん持参しての釣りになりますので荷物が大変です。船に乗せてくれるかな～と心配しております。

その中でもとんでもないリールに出会いました。今までの常識を越えたもので、そして初心者にも簡単に遠投できるというものです。Gear-Labは釣りの技術の「ワザ」は売ることができないので、「ワザ」が無くても、立派に釣りができ

るという釣具を販売したいと常に思っていましたところ、アメリカにそれを絵に描いたようなリールがあったのです。

今そのリールメーカーと交渉中なのですが、横浜のフィッシングショーに契約が間に合えばいいなと毎日お祈りしているところ。そのリールに続いて、これまた面白いルアーを同じアメリカで見つけました。素晴らしい特許製品ですが、これも近日公開予定です。ただしこれはネット販売のみにさせていただきます。小さい会社ですがネットで遅く育てていきたいと思っておりますので今後ともご支援宜しくお願い申し上げます。



旅暮らし四方山話。(その17)

旅の話は、聞いても読んで楽しいものです。飲みながらエキゾチックな旅の話や失敗談は、あちこちで何度も話したような気がします。昔、砂漠の中でベドウィン族が焚き火をしながら、旅の話を続けているうちに話しの規模が自然に大きくなり、そのことを楽しみとして今のトルコからシルクロードの発展に大きく関係したということを見た人がいましたが、この説は私も共感します。文明が発達していくのはこの旅人がいたからだとも思います。またエンターテインメントの原点は旅人の話を聞くことだと。ですので映画もいいです。映画の「ゴッドファーザー」を観てコレオーネ村に行くことだって立派な動機です。タランティーノはイタリア系でいつも食卓の会話シーンが多くて

Gear-labは普通の釣具店にはない新しく夢のある逸品釣具を紹介し続けます。全国の熱い人たちと共に本当に良いものを世の中に出すことに真剣であり常識にとられない商品開発や逸品釣具を求める方とのみチームを組んでいきます。



いきなりサブマシンガンのシーンがある妙な味わいがあります。

さて、読書から旅に出たくなる人も多はずです。私もその一人でいつも読書が行動の後押しをしてくれました。少し昔の本ですがこの沢木耕太郎の

「深夜特急」は是非お奨めです。インドのデリーからロンドンまで乗り合いバスで行く。ある日そう思い立った26歳の作者は仕事すべてを投げ出して旅にでます。途中立ち寄った香港では、街の熱気に酔いしれて思わぬ長居 (右上につづく)



をしてしまいます。マカオでは大小というサイコロ博奕に魅せられて大変なことに。バンコクだけは街も人もなぜか自分に響いてこない。香港のような熱気の再現を期待しながらマレー半島を南下しペナンで娼婦の館に滞在、女たちの屈託のない陽気さに巻き込まれてなかなかスタート地点のインドまでたどり着かない。ガイドブックを一切持たない自由な旅。そして若いときにしかできない貧乏な旅。一年以上もかけてユーラシア放浪をノンフィクションで描く、遠路2万キロのロンドンまでの旅のはめり込んでしまう本でした。

このような旅をするに一番の能力は、何でしょうか？語学力？確かに誰にでも簡単に話しかけてしまうという能力は大事だと思いますが、私のひどい英語でも通じるのですから語学力は旅の能力ではないように思います。勿論出来たに越したことはないのですが。

私が思う旅の能力は「食べる力」だと思います。何を食べても美味しいという感じ方ができないと旅が苦痛になってきます。これは日本国内でも一緒です。旅が好きな私は食事や酒もなんでもOKです。簡単に食生活を変えられます。途上国でもたぶん大丈夫です。極端な話し虫でも食べられます。実際に空手指導員でハワイの軍事施設を教えたとき、ベテラン(ベトナム戦争経験者)から虫を食べる研修をたくさん受けました。単純なことですが、これは生きるうえでかなりの自信に繋がります。

この「深夜特急」の面白いところは乗り合いバスで長い距離を移動していくのですが、その移動そのものが価値を持つものではなく、大事なことは移動することによって巻き起こる「風」なのです。その風は暖かいときもあるし、冷たいときもある。それをどう感じるかが一番興味深いところでしょう。

私も50を超えてしまいましたが、まだまだこれから「一世一代の旅」に出たいとたくらんでいます。

沢木耕太郎はそのような旅を「取り返しのつかない旅」と言っていますが、取り返しのつかない旅は二度と出来ない旅という意味です。良くも悪くもその取り返しのつかない旅は私の憧れの旅でもあります。少なくともToo late.と言わないように。適齢期はいつ？と聞かれたら「今」と答えて30秒フラットで高飛びしたい。…映画の見過ぎです。(～～;))

国際フィッシングショーに出展します

3月25日～27日まで横浜で国際フィッシングショーが開催されますが、Gear-Labはそれに出展します。

EZノッター、Gプ라이어、ROCKを中心に展示しますが、できればアメリカのルールを皆さんにご紹介できれば最高です。できなかつたらごめんなさい。<(_)_>

それまでに2点の新製品をリリース予定です。さてとGear-Labは3月に正念場を迎えます。そして4月からもGear-Labは怪しい釣具を創りつづけます。(～～;))

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



このカッサンドルの絵は旅の情景にピッタリです。

株式会社ギアラボ

〒813-0016 福岡市東区香椎浜2丁目5-2-701

Tel 092 - 663 - 5196

Fax 092 - 663 - 5102

Mail NQE50210@nifty.Com

このお気楽ニュースレターのバックナンバーは下記にございます。

<http://www.gear-lab.com/newsletter/main.htm>

Gear-labホームページ

<http://www.gear-lab.com>

毎月の新製品に追われ、全国を旅しながら、モノづくりと販売のお手伝いをしています。

お気軽にメールください。面白い釣具があれば全国どこへでも参上します！一杯呑みましょう。(～～))

福山克義(ふくやまかつよし)

メール NQE50210@nifty.com



お気楽DETCHこと福山でした